



望 と 勇

令和8年5月29日
No.9
文責 田中 誠

「練習」というけれど

先輩「運動会の練習も全校運動も『授業』だからさ。1回1回、1時間1時間のねらいを明確にして、子どもたちが意識できるようにするといいよ。」

後輩「つまり、日ごろの授業の中に運動会があるってわけですね。決して運動会がゴールというわけではなく。先生にそうやって教えていただくとありがたいです！」

水曜日の朝、校庭での全校運動を終え、校舎に向かう中で耳に届いた会話です。本校職員の先輩後輩が、ついさっきの全校運動を振り返っていたのでした。来週末の110周年記念運動会。徐々に熱量を帯びてきました。子どもたちにも先生方にも、真剣味が増してきます。

授業の声に惹かれて、校庭に出ました。6年生が表現の練習をしています。今年は組体操とフラッグダンスを交えた表現運動です。砂ぼこりと熱気のせいで体育館での演技のようにはいかず、動きもままなりません。完成度は…まだまだ。演じている子どもたちの気持ちも穏やかではないでしょう。けれど、磨かれていくのはこれからです。

フラッグダンスの一節で、リズムに合わせながらフラッグを徐々に下げていくシーンがあります。♩=140はありそうな速いテンポの中、1拍に一人ずつフラッグを下げます。前の人の動きを見つつBGMで拍を感じ、かつ素早く腕を振り上げる。少なくとも3つ以上の思考と動作を同時に行う動きです。タイミングが合わずに前後してしまうことも当然起こります。

その中であって、実に見事な動きをしている子どもたちがいました。遠目にみて10人ほどだったでしょうか。リズムとフラッグの動きがシンクロし、実に気持ちよくフラッグが倒れていきます。それはそれは見事な動きでした。思わず駆け寄りそのことを伝えると、「よっしゃあ！」「ありがとうございます！」と満面の笑顔。きっと「フラッグの動きを音楽に合わせるためにはどうしたらいいかな」ということを考えながら取り組んでいたのだと思います。精度を高めようとする中で、音に合わせて体を動かすコツや友と心がつながる喜びを体で感じていたはずです。

冒頭の先輩後輩の話の通り、運動会の「練習」と言ってもそれは一つ一つの授業であり単元。学びの場です。組体操や玉入れ、ダンス、綱引き、竹引き。お馴染みの運動会種目ですが、それらの学習活動を通して子どもたちは育っていきます。6月6日はその参観日です。お子さんの中にどうい育ちがあったのか、ぜひ見つけてあげてください。

